

皆さんこんにちは。新型コロナウイルス感染症の拡大が全国的に止まらず、愛媛県の警戒レベルは「特別警戒期間」であり、「愛媛県B A. 5 医療危機宣言」が出されていますが、正しい知識と正しい行動による感染防止対策を図りながら、油断することなく、二学期をスタートさせましょう。

3年生の皆さんは、「勝負の夏」として充実した学習生活が送れましたか。1, 2年生の皆さんは、課題に取り組みながら自分自身を振り返ることができましたか。

この夏は本校生の全国大会での活躍も輝きました。文芸部、囲碁部、将棋部、写真部が、全国高校総合文化祭に出場し、NHK全国高校放送コンテストでは、テレビドキュメント、ラジオドキュメント部門で、放送部の作品が全国作品審査に進みました。

また、陸上部男女、水泳部、ウエイトリフティング、ボクシングが、四国インターハイに出場しました。参加した選手は、持てる力を出し切り、一生記憶に残る大会となったことでしょう。中でも、1年生の秦萌々菜さんが、全国で4位に入賞したことは、昨年続く本校ウエイトリフティングの名誉となりました。そして、忘れてはならないのが、「躍動の青い力四国総体2022」に、ボランティアとして、たくさんの生徒と先生方が参加してくれたということです。昨年度から学校推進委員会として、中心になって活動してくれた皆さんは、本当にお疲れさまでした。ボランティアの皆さんの心からのおもてなしは、選手の心に深く届いたことと思います。学校推進委員会を支えてくれた河野直子先生が「この四国総体は、出場する選手だけでなく、選手や大会を支える側の生徒もまた、主役となれる大会でした」と語ってくれました。地元でのインターハイは、支える側の皆さんも、一生記憶に残る思い出となったことでしょう。

コロナ禍の中、皆さんの高校生活には、様々な制限がかかり、今までとは違った教育活動が行われ、さぞかし苦しい思いをしていることと思います。そのような中でも、皆さんは創意工夫し、一学期から夏休みにかけて、素晴らしい活躍をしてくれています。さて、二学期が始まります。西高生が一番燃える運動会、文化部が活躍する高文祭、合格目指してひたすら勉強に励む受験勉強、感染対策を万全にしての修学旅行、1年生全員が聴衆として参加する10月26日の「愛媛県定時制通信制生徒生活体験発表大会」。二学期も、一生忘れないようなかけがえない時間と空間を、自分の胸に刻み込んでほしいと思います。

さて、もう一つ、本校にはこの夏、ビッグニュースが舞い込んできました。本校の卒業生の高瀬隼子さんが、『おいしいごはんが食べられますように』で、第167回芥川賞に輝きました。このニュースは、新聞やテレビでもたくさん取り上げられ、本校のホームページにも何度も関連の出来事を掲載しました。また、文芸部の十川君が、全国総文祭で東京に行った際に、高瀬さんと面会し、学校を代表してお祝いを述べてくれました。高瀬さんから十川君に贈られた「いっぱい読んで、いっぱい書いてください」という言葉は、とても印象的でした。皆さんも後輩として、高瀬さんを応援し、本を愛する人間になってほしいと思います。

そして、高瀬さんの言葉にあるように、忙しい中でも「お昼の読書タイム」を大切に、いっぱい本を読んでほしいと思います。読書は、自分の視野を広げ、自分の行動や考え方を変えてくれるきっかけにもなります。皆さんに、司馬遼太郎さんの『21世紀を生きる君たちへ』の中の言葉を贈りたいと思います。今の時代に最も必要な考え方だと思うからです。

「助け合うということが、人間にとって大きな道徳になっている。助け合うという気持ちや行動のものは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることもと言ってもいい。優しさと言い換えてもいい。『いたわり』『他人の痛みを感じる』『優しさ』みな似たような言葉である。この三つの言葉は、もともと一つの根から出ているのである。根といってもそれは、本能ではない。だから人間は、訓練をしてそれを身につけねばならないのである。しかし、その訓練とは、実は簡単なことである。例えば、友達が転ぶ。ああ痛かったらうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中で作り上げていきさえすればよい」

制限のかかる学校生活で、感染対策を万全にしても、誰が感染してもおかしくないこのような時代の中で、相手を思いやり、優しさを身に付ける訓練をし、素敵な運動会にしたり、一人一人が、居心地の良い、母校愛溢れる学校にしたりしていきましょう。自分がしんどい時も、苦しいのは自分だけではないと、友人のことを思いやりながら、一人一人の心に素敵な時間と空間が刻み込まれる、そんな二学期を過ごしてくれることを期待しています。